

食と農と村を考える情報誌

FURUSATO YUME TOYAMA

ふるさと

夢とやま

NO.37

利賀村林業者宿泊研修施設

ふるさとウォッチング

富山市八尾町河西集落
南砺市五箇山

とやま農山漁村インターシッブ

中山間地域チャレンジ支援事業

五位ダムの里・安納芋と五位米でふる里起こし

魅力たっぷり!とやまの6次産業化

カモ親子の農村日記

豊かな水の恵みを受ける入善平野(入善町)

トピックス

とやま帰農塾2016

第5回「とやまの農山村写真展」・平成27年度「水の事故・ゴミ捨て防止標語・ポスター」受賞作品

河西の棚田

ふるさとウォッチング

住民全員で楽しみながら山里を元気に！

富山市八尾地域西部の中山間地域に位置し、東に立山連峰を望み、美しい棚田が広がる河西集落。農地面積約 20ha、21 戸の住民が暮らす小さな集落ですが、地域の活性化に向け住民全員で、中山間地域等直接支払制度などを活用しながら耕作放棄地の再生や特産物の栽培、棚田オーナー事業に取り組んでいます。

中山間地域等直接支払制度とは…?

農業生産条件の不利益な中山間地域等において、集落等を単位に、農用地を維持・管理していくための取決め(協定)を締結し、それにしたがって農業生産活動等を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する制度です。

耕作放棄地の再生と景観づくり

河西集落では、平成12年度に中山間地域等直接支払制度の集落協定を締結し、農用地の保全や水路・農道の維持管理活動に取り組んでいます。集落内の農家が耕作している農地だけでなく、集落外への転出や高齢化により耕作出来なくなりそうな農地も集落協定対象農地に加え、集落共同で農地を管理しています。



耕作放棄地の再生

耕作放棄地の再生前

耕作放棄地の再生作業

耕作放棄地の再生後

エゴマの収穫作業

ブルーベリー

特産物の栽培

再生した耕作放棄地など集落全員で管理している共同農地では、特産物として、ソバ、ブルーベリー、エゴマ、ショウガの栽培に取り組んでいます。特にブルーベリーは平成15年に約2a、平成21年に約3a植栽し、現在は集落の女性グループが収穫・販売を行っており、河西産の美味しいブルーベリーとして直売所等で好評を得ています。また、近年、健康食品として注目を浴びているエゴマも平成23年から約20aの農地で栽培に取り組み、JAや直売所等に出荷しています。

花に囲まれた美しい景観づくり

河西集落には東に立山連峰を望む美しい棚田が広がっています。この棚田をさらに美しい景観とするために、農地にコスモスやゴールデンピラミッドなどの景観作物を栽培しているほか、畦畔に彼岸花を植栽しています。これらの取り組みによって、秋には、真っ赤な彼岸花や真っ白なソバの花、ピンク色のコスモスなどが咲き乱れ、花に囲まれた美しい景観をつくっています。

棚田オーナー制の取組み

河西集落では、都市住民との交流による地域の活性化を図るため、平成18年から棚田オーナー制に取り組んでいます。棚田オーナー制では、水田での田植えや稲刈りなど米作り体験のほか、野菜農園でのジャガイモやサツマイモ、ダイコン等の収穫体験、6月にはホテル観察会、12月にはそば打ち体験なども行っています。また、オーナーの方には集落の住民交流イベントである納涼フェアやコスモスフェア、そば祭りにも参加してもらい、集落住民と交流しながら1年を通じて河西集落の自然や農業、食を楽しんでもらっています。



そば打ち体験教室

稲刈りとハサ掛け

青空の下での田植え

元気な山里をめざして

平成12年度に中山間地域等直接支払交付金事業に取り組んで以来、河西集落では「住民みんなで楽しみながら行う」を基本として、住民がいろいろなアイデアを出し、役割分担しながら活動してきました。高齢化が進む小さな集落ですが、昨年5月には県外から若い夫婦が空き家を借りて移住されており、これからも、住民一丸となって地域の景観・伝統文化を守りながら元気な山里を目指して取り組みを進めていきます。

畔に植栽された彼岸花



棚田のコスモス



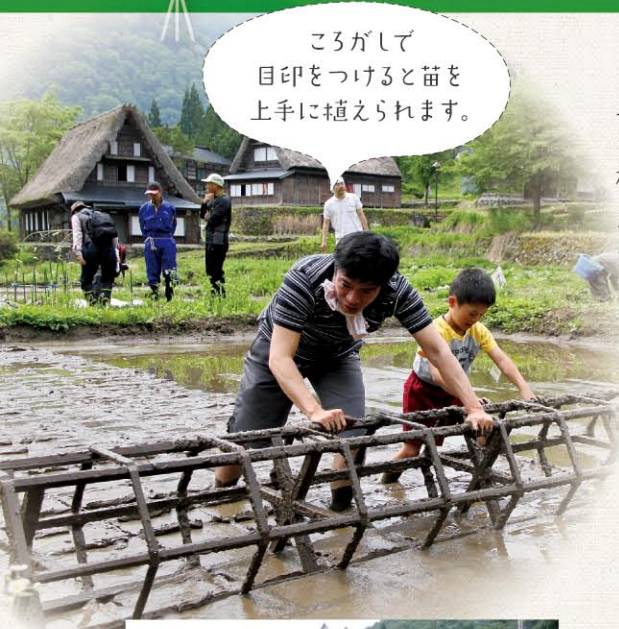
野菜農園でのジャガイモ掘り



真っ白な絨繻を敷き詰めたようなソバ畑



ふるさとウォッチング



ころがして
目印をつけると苗を
上手に植えられます。

田植え

平成27年春の早生品種「てんたかく」の田植え作業は、棚田オーナーに参加しました。田植え作業は、オーナーの皆さんが手植えで行います。まず、苗を植える場所が分かるように「ころがし」とよばれる農機具を転がし、田んぼ内に付けられた目印に合わせて、慎重に丁寧に苗を植えていきます。小さな子どもたちも裸足になり、服が泥だらけになっても大はしやぎで田植えを手伝います。皆さんは慣れない作業で泥のぬかるみに足をとられながらも、美味しいお米が育つようにと願いながら、上手に苗を植えていました。



稲刈り

秋の稲刈り時は、手刈り、ワラでの稲縛り、ハサ掛けを実施します。通常、市販されているお米は乾燥機で乾燥させますが、このハサ掛けのお米は天日干しなので太陽の恵みを十分に浴びており、味も上々です。平成27年は雪解けが遅く5月末の田植えとなりましたが、順調に生育し、秋には黄金色に実りました。オーナーの皆さんは慣れない作業に苦戦しながらも、観光客らが見守る中、汗を流し楽しく行いました。丁寧に刈り取られた稲は、ハサに掛けられ天日干しをおこない、脱穀し粉摺されオーナーの皆さんに配布したほか、一部は「世界遺産米」として集落内でお土産用に販売しています。



ハサ掛け…昔ながらの乾燥方法で、刈り取った稲などを木材や竹を組んで作った稲架(はさ)に掛けて、天日で干すこと



南砺市五箇山

世界遺産にある五箇山の棚田

平成7年にユネスコの世界文化遺産に登録され、昨年20周年を迎えた五箇山相倉集落。庄川からやや離れた段丘上に位置し、北東にゆるく傾斜する細長い台地には集落とともに棚田が広がっています。相倉集落には20棟の合掌造り家屋が現存し、古いものでは400年前に建造されたものもあります。棚田は県内では珍しい石積み畦畔で築かれ、合掌造りと相まって美しい農村風景を魅せてくれます。

大収穫祭



みんなで農作業の日in五箇山のイベント

地区名	日程	活動内容	お問い合わせ先
相倉 棚田オーナー	5月下旬	田植え	五箇山農業公社 TEL 0763-67-8050
	9月中旬	稲刈り	
上平 赤かぶオーナー	8月下旬	赤かぶ 種まき	
	9月中旬	赤かぶ 間引き	
	10月下旬	赤かぶ収穫	
利賀 そばオーナー	8月上旬	そば 種まき	利賀村農業公社 TEL 0763-68-2352
	10月上旬	そば収穫	
	10月中旬	そば打ち体験	
3地区合同	11月下旬	大収穫祭	五箇山農業公社 TEL 0763-67-8050

グリーン・ツーリズムとは？

ヨーロッパ生まれの言葉で、「緑豊かな農山漁村地域を舞台に、自然・文化・人々との交流を楽しみながら過ごす滞在型の余暇活動」のことをいいます。農山漁村には自然と共生する人々の営み、豊かな自然が醸し出す独特の風情があり、「ゆったりとした時間」を提供してくれます。富山の農山漁村は「リフレッシュできる緑豊かな空間」と海・山・野の幸に恵まれています。

「みんなで農作業の日」 in五箇山

「五箇山の農地を守り、暮らしを後世へ繋ぎたい。」その熱い思いから挑戦が始まった「みんなで農作業の日」in五箇山は、平成12年に旧利賀村で始まり、平成16年11月の南砺市誕生を機に平・上平地域でも始まりました。世界遺産・五箇山を舞台に、自然や農業・伝統文化を「グリーン・ツーリズム」の素材として活かしながら、現在では多くの方々に参加いただくイベントとして定着しています。

世界遺産・五箇山棚田 コーリヤク隊

平成18年に「五箇山棚田コーリヤク隊」(コーリヤク：方言で「助ける」「手伝う」の意)が結成され、ボランティア活動により世界遺産・相倉合掌造り集落をはじめ五箇山地域の農地・景観保全に努めています。このコーリヤク隊には、企業の新規採用者や都心の学生なども参加しており、多くの若者が五箇山へ訪れるきっかけとなっています。コーリヤク隊の取組みは、ただ農作業を手伝うだけでなく地元の方々の語りなど、地域住民との交流することによって、集落の活性化にも繋がっています。

五箇山の棚田は、単に農業生産の場だけでなく「世界遺産合掌集落」である五箇山の美しい景観の保全と地域の活性化に大きな役割を果たし続けています。



「みんなで農作業の日」in五箇山には、県内外から多くの棚田オーナーが参加されます。平成27年は、棚田オーナー12組の登録があり、遠くは茨城県や静岡県からの応募もありました。

平地域の「世界遺産・五箇山棚田オーナー事業」は世界文化遺産「相倉合掌造り集落」の中にある棚田という他にない強みを生かした事業です。棚田オーナーは、合掌造りと豊かな自然に囲まれた棚田で田植えや稲刈りに取り組みます。





▲モンゴル米の稲刈り

02 朝日町蛭谷地域

【日程】 ① 8/2(日)～8(土)
② 8/19(水)～25(火)

▶雪かきイベント



県内でもとりわけ人口減少や高齢化の進行が著しい朝日町。なかでも、山あいに位置する蛭谷地域は高齢化が進み、いずれ地域が成り立たなくなることが予測されています。参加者は、「このような状況のなか、今、地域は何をすべきか」という課題解決の提案に向け、活動に取り組みました。

期間中、農作業や電気柵等の管理から、統計資料の分析まで様々な活動に取り組みましたが、もつとも心に残ったのは、地域の皆さんとの『交流』だったようです。成果発表では、自然や人の温かさによる『癒し』効果の活用や、大学との連携など、地域の魅力を活かし現状を打破するための方法が提案されました。閉講式では自ら制作した伝統工芸品『びるだん和紙』の修了証を受け取り、涙する参加者も。

その後、二月に行われた雪かきイベントに再び結集。真夏とはちがう冬の蛭谷を満喫しつつ、地域とそこに住む人たちの魅力を再確認したようです。



▲地域住民との交流 (パタパタ茶伝承館)

03 氷見市八代地域

【日程】 9/19(土)～25(金)

▶食のイベント [HIMI'S KITCHEN]



▲氷見牛の飼育作業

「海」のイメージが強いですが、実は全域が豊かな里山地帯の氷見市。その中ほどにある八代地域は、「氷見牛」や「じねんじょ」など氷見が誇る特産品の産地ですが、近年は生産者の高齢化や後継者不足が深刻な悩みです。そこで今回、国際ボランティアNGO「NICE」と共催し、社会人を含む熱心な若者たちが「特産品を活かした特色ある地域づくり」の提案に向け活動に取り組みました。

参加者は、牛舎や畑などの生産現場で話を伺ったり、環境パトロールに同行し、林道の倒木撤去作業などに取り組みました。積極的な参加者の姿に、「こんなに熱心に従事してくれるとは思ってもなかった」と地域の皆さんも驚くほど。成果発表では、社会人ならではの見識も活かし、情報発信のアイデアやイベント開催など具体的な方策が提案されました。

その後、八代地域に魅力と愛着を感じた参加者は、11月に自主企画の食のイベント「HIMI'S KITCHEN」を開催。インターンシップが地域と参加者をつなぐきっかけとなりました。



▲倒木撤去作業

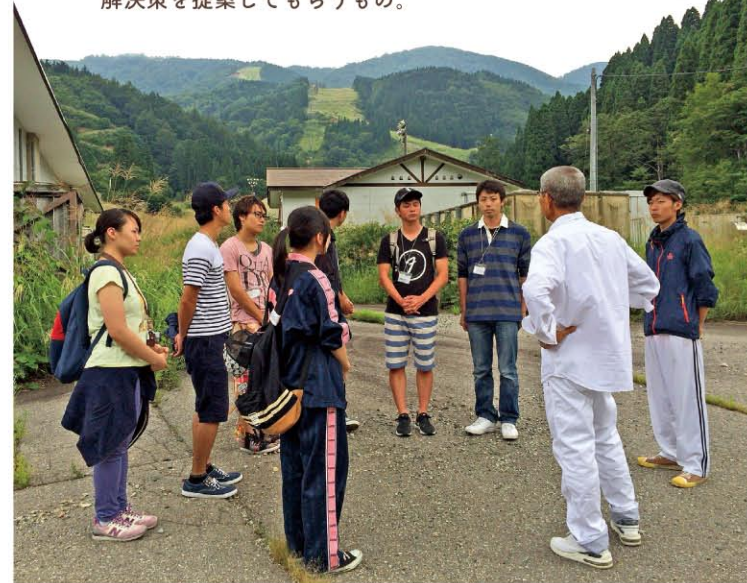
とやま農山漁村インターンシップ

大学生ら若者世代を対象とした地域滞在型のインターンシップ事業「とやま農山漁村インターンシップ※」が、県内3地域で計5回開催されました。地域における若者たちの活躍をご紹介します。



「とやま農山漁村インターンシップ」とは・・・

都市部の学生等を一定期間地域に受け入れ、農林業体験や地域づくり活動、住民への聞き取りなどを通して、地域の現状を知り、地域の課題に対して若者目線での解決策を提案してもらうもの。



▲村おこしの歴史・施設見聞

01 南砺市利賀地域

【日程】 ① 8/1(土)～7(金)
② 8/24(月)～30(日)



▲電気柵設置

◀そば祭りボランティア

インターンシップから次のステップへ

実施期間中、若者の活躍により地域は笑顔と活気に包まれました。そして、地域住民の意識変化、提案の実現に向けた検討、若者のネットワークを活用した情報発信など、すでに各地で地域活性化の次のステップに向けた動きが始まっており、今後も様々な可能性へと繋がっていくことが期待されます。

四十年以上にわたり村おこし事業に取り組んできた南砺市利賀村。著しく人口が減少する中、魅力ある新たな都市農村交流のかたちを探るべく、「農山村地域ならではの魅力の再発見」を課題としました。

参加者は、利賀の地域資源を探するため、村おこしの歴史や、ゆかりのある施設を見聞し、新割りや電気柵設置など農山村の暮らしを体験しました。成果発表では、そば粉やどぶろくなどの特産品を利用したアイデアや、閉鎖されたスキー場の活用など、若者らしい斬新な視点で利賀の魅力が取り上げられました。

その後、二月の「南砺利賀そば祭り」では、ボランティアスタッフとして再訪。夏とは異なる景観や大規模なイベントに、驚きながらも感動していた様子でした。今後も参加者が再訪すること、新しいネットワークが形成され、地域活性化の推進力となることが期待されます。

五位の安納芋商品開発

安納芋とコシヒカリ ジェラート



安納芋のどら焼き

安納芋モンブラン



つくりもん焼き



安納芋 つくりもん焼き

スコゴイ 寿五位 山の米



高橋 伊藤 仁



安納芋を使った商品開発

軌道に乗った安納芋の栽培ですが、「五位の安納芋」の知名度はそれほど高まりませんでした。そこで、ただ販売するのではなく、安納芋の特長である糖度の高さを活かした新たなスイーツを作れば、多くの人に「五位の安納芋」を知ってもらえるのではないかと考え、(株)ウエルカム福岡や富山製菓専門学校とタッグを組み、新たな商品の開発に取り組みました。

五位の安納芋に企業の持つ技術、若いパティシエの力が加わり、とら焼き、パウンドケーキ、ジェラートなど様々な商品が誕生しました。開発された商品は、地域の収穫祭や福岡町産業フェスティバルなどで販売し、好評を博しています。また、福岡町で



地域特産物のブランド化

五位集落の農地の大部分は水田で、昼夜の寒暖差と子撫川の渓流水でとても美味しなお米が育ちます。安納芋の栽培と併せて、こうした五位で収穫される米などの農作物を他地域のものとの差別化するため、平成26年9月に商標登録を行いました。その名も「寿五位(スコゴイ)」。長寿や、めでたいといった意味のある「寿」と地域名の「五位」を掛け合わせ「スコゴイ」という意味です。

この「スコゴイ」を五位地域で生産された農産物に付け、ブランド化を進めることにより、地域の活性化を図っています。



五位のこれから

高齢化・過疎化が進む中、「緑のふるさと協力隊」として平成25年度に活動された女性が地域に定住し、営農組合の基幹部分の農作業に従事するなど、地域営農の新たな担い手として活躍しています。

こうしたことも地域の大きな活力となっており、五位米の販売促進や知名度が高まってきた安納芋の栽培強化、新たな商品開発に今後も地域一丸となって取り組んでいきます。



中山間地域チャレンジ支援事業の紹介

五位ダムの里・安納芋と五位米でふる里起こし

五位集落は、高岡市北西部の旧福岡町五位山地域に位置する中山間地域で、76人(H27.10.30現在)が生活しています。住民の高齢化、人口減少、イノシシなどによる農作物被害といった問題に悩まされ、地域の衰退が目を追うことに顕著に表れる中、集落の住民が一丸となって「1集落1農場」をスローガンに活性化を図っています。また、「地域の特産を作りたい」との思いから、県の中山間地域チャレンジ支援事業を活用し、安納芋(サツマイモ)の栽培に取り組んでいます。

初めての挑戦！安納芋作り

五位集落では、過疎化・高齢化により作業条件の悪い場所にある畑が耕されなくなると、という不安が日増しに高まってきました。今は五位営農組合が代わりに耕作できたとしても、将来、耕作放棄地となればイノシシなどの格好の住み家となり、さらなる農作物被害へとつながります。そこで、この畑を活用した新たな特産品作りを模索していたところ、安納芋に出会いました。

安納芋は主に鹿児島県種子島で生産されているサツマイモで、糖度が高く、焼き芋



や蒸かし芋にすると「しっとり」とした粘質になり、甘みが強く感じられ、加工用としても利用されている人気の品種です。

まず五位営農組合が苗を600株植え、栽培を始めたところ、大変よい評価を得たことから、周りの農家が「うちも、うちも」とみるみるうちに2,700株まで栽培が増えました。



五位集落

▶中山間地域チャレンジ支援事業とは…

中山間地域の集落と企業・団体等が連携して取り組む農山村を元気にする活動(農業生産活動の支援、新商品開発など)に対して、県が支援する事業です。





- 1 シンプルで飽きのこない味わいのイケダウインナー(320円/100g)
- 2 ヨーロッパの食肉店のデザインを取り入れたこだわりの店舗
- 3 様々なハムやソーセージが並び店内、美味しい食べ方や合うお酒を教えてください。

“池多牛”で作るドイツ仕込みの本格的な逸品



3

国の「6次産業化ネットワーク活動交付金」を活用して誕生した、魅力あふれる6次産業化商品とその販売店舗を紹介します。



1



社長の村田勝己さん

メツゲライ・イケダ (代表取締役 村田 勝己)

富山市古沢651-1
電話/076-427-0006
営業時間/10:00~18:00
定休日/火曜日
<http://metzgerei-ikeda.com/>

富山市の(有)池多ファームが営む、「メツゲライ・イケダ」。「メツゲライ」とは、ドイツ語で「食肉店」。「イケダ」は、農場のある池多地域に敬意を表して名付けられました。

現社長の村田勝己さんは、畜産業を営む父とともに育てた牛の加工品を作りたいという思いを抱き、30歳で脱サラ・就農した際、6次産業化に取り組むことを決意しました。本格的な加工品を作り上げるため、文献で製法を学んだほか、

東京やドイツへ修行に出て腕を磨きました。平成17年に販売店舗を開店し、同年、翌年と連続で本場ドイツの食肉加工協会が主催する世界最高峰の国際コンテストで金賞を受賞しました。

平成26年度に国の6次産業化ネットワーク活動交付金を活用し、新たな加工場兼販売店舗を整備。特徴のある商品を提供するお店にしたいという思いから、素材は自家産牛肉や県産豚肉を厳選し、加工法も本場ドイツの伝統的な製法を採用するなどこだわりを持っています。

自慢のビーフジャーキーは、モモ肉を使い、しっとりやわらかく仕上げられています。脂が甘く、スモークの香りとマッチしており、店頭に出るとすぐに売り切れるほど人気です。また、自家産牛肉と県内産の豚肉を使い、ブナの木のチップでスモークしたイケダウインナーもヨーロッパ風の香りが楽しめる逸品です。

そのほか、季節限定の商品として、初夏には行者ニンニク入りのウインナーが並びます。秋には野菜や果物入りウインナー、冬には豚の血液を加工原料に加えたブラッドソーセージなど、本場ドイツでも作られる珍しい商品を加工、販売しています。

メツゲライ・イケダに来られるお客様は、舌の肥えた方が非常に多く、「そのお客様に飽きられないようどんどん新しい商品を作って驚かせたい。また買いたいと思わせる店でありたい。」と村田社長は話しています。

6次産業化ネットワーク活動交付金とは...

農山漁村における6次産業化を推進するため、農林漁業者と地域の様々な事業者等で形成されるネットワークを活用して取り組む新商品開発や販路開拓、その取り組みに必要な機械又は施設の整備を支援するもの。



仁光園
(代表取締役 島 哲哉)
高岡市十二町島134
電話/0766-63-8084
<http://niko-en.co.jp/>



2

魅力たっぷり! とやまの 6次産業化

カラダにやさしくて美味しい! 「米寿の卵」シリーズ

高岡市に本社を置き、鶏卵の生産販売を営む(有)仁光園では、こだわりの「米寿の卵」の規格外品を活用し、6次産業化に取り組んでいます。

一般的に鶏の飼料の約5割がトウモロコシですが、「米寿の卵」は、それをすべて県産米にして育てた鶏の卵であり、血流改善、血栓予防効果や老化予防効果に優れたαリノレン酸が通常の卵の約2倍含まれているとのこと。

この「米寿の卵」を消費者に広めたい、規格外卵を有効活用したいとの思いを抱き、平成24年頃から6次産業化の取り組みを始め、平成26年度には国の6次産業化ネットワーク活動交付金を活用してジェラート、生姜プリン、糍タルタルディップの3つの商品を開発しました。

一番人気の商品は、「米寿の卵の米たまジェラート」のプレーン味。米寿の卵と南砺市産の牛乳をふんだんに使用した贅沢なジェラートです。一般的なパニライアイスクリームの3倍以上の卵を使用しているため、濃厚ながらやさしい味わいになっています。このほか、地元産のフルーツを使い、クリームチーズ&ブルーベリー味、ラムレーズン味、クリー



- 1 左から、みかん風味、ゆず風味。糍がポイント!
- 2 生姜のピリッとした辛さと米寿の卵の上品な甘さがマッチした新感覚の「米寿の卵」こだわり生姜プリンも人気です。
- 3 米たまジェラートのプレーン味。卵の味が際立ち、驚くほど濃厚です。

ムチーズ&苺味など、バラエティ豊かにラインナップを揃えました。

社長の島哲哉さんのイチオシ商品は、「米寿の卵の糍タルタルディップ」です。米寿の卵と県産の新鮮な野菜を糍に漬け込み旨みを凝縮して、油を一切使わずに作り上げました。揚げ物に添えたり、サラダのトッピングにしたり、美味しい食べ方は様々。加えるだけでいつもの料理がオシャレで華やかに仕上がります。ゆず風味とみかん風味の2種類を取り揃えており、柑橘系のさっぱり感と米寿の卵のkokoroが楽しめる自慢の逸品です。

「米寿の卵の良さを広く発信して、たくさんのお客様にお届けしていきたい」と島社長。今後も米寿の卵を使った魅力ある新商品づくりに取り組んでいくとのこと。みなさんも是非、「こだわりの米寿の卵」を使った商品をご賞味ください。

6次産業化とは...

「地域資源」を有効活用し、農林漁業者(1次産業従事者)が、自ら加工(2次産業)や販売・サービス(3次産業)に取り組み、経営の多角化を進めることで、農山漁村地域の活性化や雇用の創出を目指すこと。



ふるさとを創る
土地改良施設を水辺から
眺めたお話

杉沢の沢スギ

黒部川扇状地扇端の吉原地区の海岸近くに、沢スギの林があります。黒部川の大水や洪水で山から流れたスギが、下流の湧水地帯に流れ、自然の林ができたのではないかと考えられています。スギ林内では、年中一定温度の湧き水が出るので、気温はあまり変化せず、夏は涼しく、冬は暖かい環境を作り出しています。湿度は少し高め、多くの種類の草木が茂り、光や風が通り抜けにくい独特の自然環境となっています。全国で唯一、平地の湧水地に生育する自然林に近いスギ林で、国の天然記念物に指定されています。



▲沢スギ



間を通じて水量が豊富です。入善平野では、この清流日本一の黒部川が育んだ大地と豊富な水により、富山県屈指の良質な米、種籾、チューリップ、入善ジャンボ西瓜、白ネギ等が生産されています。また、海岸部付近には名水百選に選ばれた「黒部川扇状地湧水群」があり、独特の自然環境を形成すると共に、地域住民の生活用水として利用されています。



▲流水客土

温照水路
農業用水を流水状態で温めるため、勾配を緩くし、幅を広くした水路。流速が抑えられることで水温上昇が図られる。

客土
土壌中に不足している要素や土質の改良のため、性質の異なる土を搬入すること。

黒部川扇状地の水田は、黒部川の雪解け水による低温水や、扇状地特有の水はけのよい砂質土壌と浅い耕土のため、水稲収量や米質は全国的にも低い水準でした。そこで、温水ため池や温照水路の設置などの水温を上げる対策と、粘土質の赤土を客土し水の浸透を抑え耕土を確保する対策が実施されることになりました。客土工事は、黒部川扇状地の用水路が適度な勾配を持ち平野の隅々まで行きわたっていること、水量が豊富であることを生かし、山の赤土に水を噴射し用水路を流下させ水田に送り込むという工法がとられました。この工法は「流水客土」と言われ、昭和25、26年度の試験客土を経て、昭和36年3月までの10年間にわたり全国初の流水客土事業として実施されました。これらの対策により、田面の水温が上昇しただけでなく、鉄分を含んだ粘質土が客土されたこともあって、水稲の収量は増加し米質も改善されました。

黒部川扇状地の冷水と砂質土壌の克服

— 全国初の流水客土事業 —



杉沢の沢スギ

庄助川

小水力発電所

カモ親子の農村日記



豊かな水の恵みを受ける入善平野（入善町）

富山県と長野県の境、北アルプス鷲羽岳を源とし、富山湾に注ぐ黒部川。川の8割は深い山地を流れますが、黒部市宇奈月町愛本付近で山地を抜けると、愛本を扇頂とする広大な黒部川扇状地が入善町・黒部市に広がっています。

入善平野を潤す水

黒部川は国内屈指の急流河川であることから豪雨のたびに暴れ川と化し、川筋が幾筋にも分かれて流れ、その多さから「四十八ヶ瀬」または四十八文字にちなんで「いろは川」と呼ばれ、人々から恐れられていました。氾濫を繰り返し、人々を苦しめた黒部川は、治水工事が進み河道も安定した明治期に現在の形になりました。

この急峻な地形を活かし、大正時代から水力発電が開発され、中でも山岳地帯を舞台に壮絶な難工事が行われた黒部ダムや黒部川第四発電所といった通称「くろよん」と呼ばれる電源開発事業が特に有名です。

黒部川流域の年間降雨量は非常に多く、さらに夏まで続く雪解け水も相まって、年

湧水とサケの遡上する庄助川

庄助川は、入善町の北西部に位置し、黒部川右岸側に隣接して流れる全長2,570mの基幹排水路です。庄助川は、伏流水が地表に湧き出る湧水を受けるため、年間を通じた豊富な水量と水質の良さが特徴です。秋には大量のサケが遡上し、近年見かけられなくなった魚類や底生動物が生息するなど、豊かな生態系を有していることから、県では排水路改修工事を行うにあたり生態系調査を行い、生息する動植物等の自然環境の保全にも配慮し、石積護岸排水路としました。

バイカモ（梅花藻）の繁殖期には、排水機能に支障を生じないよう刈取り作業を行う必要があります。水中での作業で多数の人力が必要となりますが、刈り取った大量の藻が日本海へ流出しないよう独自の集積籠を作製したりするなど、庄助川だけでなく周辺の環境にも十分配慮した共同作業活動が行われています。

庄助川の環境保全と維持管理活動を行う「庄助川排水路施設維持管理協議会」は、平成27年度とやま水土里コンクールで優れた維持管理活動を実施しているとして「とやま水土里賞知事賞」を受賞しました。



▲サケの遡上



サケ捕ったぞ!

- 1 バイカモの刈取り作業
- 2 小学生による自然観察会

浦山新地区 小水力発電

黒部川扇状地は、豊富で安定した表層水、地下水等の水源に恵まれています。この豊富で安定した水源を生かし、浦山新地区内で小水力発電所を建設中です。小水力発電は、無駄のない水利用と二酸化炭素を排出しないクリーンエネルギーとして奨励されています。平成29年3月に稼働開始を予定しています。



▲浦山新地区発電所



▼黒部川古図

水護神社 松明まつり

入善町壘ノ木地区にある水護神社は、氾濫する黒部川の洪水を鎮め、かんがい用水の護り神として信仰されていました。その昔、大洪水により堤防が破れた際、境内で多くの松明を作り、現場へ運んだと言われています。毎年10月、洪水からの無事を祈るとともに、利水の恩恵に感謝する松明祭りが行われています。



第5回「とやまの農山村写真展」

受賞作品

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農村風景を後世に守り伝えるための啓発活動の一環として開催しています。作品をご覧いただいた方々が富山県の魅力を再発見する、良いきっかけになるものと思っています。応募総数134作品(一般120作品・ジュニア14作品)から、県知事賞受賞作品を紹介します。

一般部門

県知事賞最優秀賞
「冬日」吉沢 道子 (高岡市)

県知事賞優秀賞
「ハーイ・キャッチ」吉田 伊佐夫 (富山市)

県知事賞優秀賞
「雪は宝」梶原 隆 (富山市)

ジュニア部門

県知事賞最優秀賞
「冬支度」川尻 ちひろ (富山市)

県知事賞優秀賞
「おばあちゃんとかかし」小川 稜介 (氷見市)

受賞作品は「とやま棚田ネットワーク」のホームページでご覧いただけます。 [とやま棚田ネットワーク](#) 検索

受賞作品

平成27年度 「水の事故・ゴミ捨て防止」

—農業用水って何だろう?—
標語及びポスター受賞作品

農業用水やため池における水難事故やゴミ投棄の防止を呼びかけるため、標語及びポスターを募集しました。標語637点、ポスター424点の応募作品から、標語部門県知事賞作品、ポスター部門県知事賞(最優秀賞)作品を紹介します。



寺崎 真実 (魚津市立西部中学校2年)

うれしいね 未来につなぐ いのちの水
近藤 杏珠 (射水市立歌の森小学校2年)

まもりたい ほたるがキラキラ あそぶ川
柴田 鼓己 (上市町立上市中央小学校3年)

きれいな用水で実る 大地のめぐみ
黒田 ひいろ (立山町立立山小学校4年)

越の国 水が育む 米どころ
高尾 英朗 (富山市立堀川南小学校6年)

川遊び 魚に夢中 あぶないよ
荒木 良菜 (富山市立上桑小学校6年)

受賞作品は県農村整備課のホームページでご覧いただけます。

[富山県農村整備課](#) 検索

塾生募集!



ご家族・ご友人同士で、
お誘い合わせの上ご参加ください!

とやま帰農塾 2016

田舎暮らしや移住・定住に関心のある方、農林漁業を体験してみたい方
富山の農山村で自然と歴史、農業と食文化を学び合い、体験しませんか?

- 高岡市 国吉塾**: 5月7日~9日 だけのご搾り
- 氷見市 灘浦塾**: 9月2日~4日 地引き網体験
- 黒部市 黒部塾**: 11月12日~13日 巻江(昔の用水路)整備
- 朝日町 大家庄塾**: 11月19日~21日 味噌づくり
- 朝日町 笹川塾**: 6月17日~18日 山菜採り
- 魚津市 松倉塾**: 9月17日~19日 稲刈り&お餅つき
- 立山町 立山塾**: 10月21日~23日 宮り窯薪火体験
- 富山市 やまだ村塾**: 7月16日~18日 マコモタケ田の草取り
- 富山市 大長谷塾**: 10月8日~10日 きのこ狩り
- 南砺市 井波塾**: 10月28日~30日 里芋の収穫作業
- 南砺市 五箇山塾**: 8月22日~24日 茅場の下草刈り

参加費	2泊3日	15,000円
	1泊2日	8,600円

平成28年度の各塾のスケジュールは、HPをご覧ください。

お申込み・お問い合わせ [グリーンツーリズムとやま](#) TEL/076-482-3161 FAX/076-482-3635 [E-mail] info@g-ttoyama.net

[富山県農村振興課](#) TEL/076-444-9011

[とやま帰農塾](#) 検索

標高1,000m以上の山々に囲まれ、庄川・利賀川・百瀬川が深い谷を作る人口約600人の南砺市利賀地域。面積の約97%が森林のこの地で、林業に携わりながら森の資源で山の新たな価値を生み出そうと活動しているのが、一般社団法人moribio(モリビオ)森の暮らし研究所です。従来の森林管理に加え、環境教育・山の環境調査、そして、森の低層で生える広葉樹のクロモジなどの資源をいかした商品開発にも力を入れています。

クロモジは樹皮に香りの成分が含まれており、刈ると爽やかな良い香りがするため、古くから楊枝の材料として使われていますが、利賀村ではあまり活用されていませんでした。また、香りが良いだけではなく、中に含まれる成分に整腸・抗菌・殺菌作用があるといわれていることから、現在は、薬用酒の原料としてメーカーに卸しているほか、「利賀のクロモジ茶」に加工して販売しています。



moribio
森の暮らし研究所の
みなさん



江尻 裕さん
美佐子さん夫妻

(一社)moribio森の暮らし研究所の代表を務める江尻夫妻は、夫の裕さんは県職員として、妻の美佐子さんは日本語教師として静岡県で生活していましたが、富山出身の裕さんの祖母の介護などをきっかけに、16年前、富山への移住を決意されました。もともと田舎暮らしや自然の中での仕事への思いもあったことから、初期投資が少なく、元気な体があればできる林業が良いと考え、各自治体に手紙を送り、最初に返事のあった利賀村からの熱いラブコールを受け、利賀村上百瀬に移り住み、森林組合への就職を決めたそうです。

山のなかで体を精一杯使いながら働くことで心が満たされていく林業。“森を守るためだけでなく、達成感がある仕事だ”と夫妻は語ります。利賀の山と水源を守り、その良さを次世代に伝え、村の未来につなげたい。これが夫妻の目指す林業のかたちだそうです。

一般社団法人 **moribio**
森の暮らし研究所

〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬537
TEL.0763-68-2177

<活動内容>

- 森林・緑地の管理サービス
- 森林調査・森林資源の調達
- 森林体験・環境教育
- 地域と協働の森林経営

Information



とやま地産地消顕彰のご紹介

富山県では、県民の皆さんが積極的に地産地消に取り組む気運の高揚を図ることを目的に、地産地消の優良な取組みを表彰しています。

平成27年度

とやま地産地消 優良活動表彰

地域と連携・協力して地産地消に取り組み、優良活動と認められた企業・団体を「優良活動賞」として表彰しています。



優良活動賞
有限会社ファーム中田/氷見市
レストランのシェフに対し野菜の
説明



優良活動賞
朝日町漁業協同組合女性部/朝日町
魚のさばき方教室

平成27年度

とやま地産地消 メニューコンテスト

学校給食、社員食堂、外食・弁当等において、生産者との交流促進等の取組みを伴った地場産農林水産物を食材として活用したメニューを募集し、優れたものを表彰しています。



最優秀賞
魚津市学校給食センター
「げんげの唐揚げ」「すりみだんご汁」「加積りんご」など、地元の特産物をたくさん取り入れた献立

優秀賞
滑川市学校給食共同調理場
海の幸ホタルイカと山の幸こごみ、菜花を使い、春の訪れを感じ・味わえる献立。

詳しくは、「越中とやま食の王国」ホームページ (<http://shoku-toyama.jp>) をご覧ください。

日本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。日本誌の内容が富山県ホームページでもご覧になれます。<http://www.pref.toyama.jp/>

第37号 平成28年2月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに棚田地域水と土保全基金で発行されています。

発行

富山県 富山県農林水産部農村振興課

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-444-3380 FAX 076-444-4427
富山県農村環境創造基金 <http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/noukan/index.html>
とやま棚田ネットワーク <http://www.nn-toyama.jp/tanada/tanada.htm>

編集



水土里ネット富山

〒939-8214 富山市黒崎17番地
TEL 076-424-3300代 FAX 076-424-3332
<http://www.tomidoren.jp>

この冊子は再生紙を使用しています。